

動の中で、なかなか出席できなかった時もありましたが、多くのメンバーと出会い、沢山の経験を得ることが出来ました。このような機会を与えて下さいました皆様に感謝致します。また、出向で得た経験を今後のJ C活動に活かして行きたいと思います。1年間、ありがとうございました。

(B) 〇〇日本青年会議所東北地区秋田ブロック協議会

出向を終えて

(社)日本青年会議所 東北地区 秋田ブロック協議会

会 長 長谷川 尚 造

「君はまだ秋田の会長に決まった訳じゃない、この面接を通じて我々が判断する」・・・ブロック会長なのに呼び込みがあるの！？と思いつつ会頭室で安里会頭の面接を受けた際に最初に言われた一言を今でも鮮明に覚えています。ガバナンスと称し、本会・地区・ブロックの人事・事業等を名実共に一本化するという方針を掲げた09日本J C。考えて見れば当然のことで、協議会は日本J Cの組織の一部であり、会頭がブロ長を決めるのが本来の姿。しかし事業まで押しつけられては堪らないし、秋田ブロック独自の事業はできなくなるのかという不安と不満。そんな心境からスタートした09ブロックも早いもので一年を終え、2010年度のブロックへ無事禪を渡すことができました。

まずは本会連携事業。ブロック内初の知事選公開討論会を成功させた勢いで迎えた憲法タウンミーティング。パネルディスカッションをやってもGWでは人が集まらないし、そもそも憲法に興味のある市民に啓発したって意味がないという担当委員長のひらめきで、連休中人が集まるであろう大館の某ショッピングセンターにて子供をターゲットにしつつ同伴の大人に憲法についての啓発運動を行い、計画以上の成果を挙げることができました。反面、領土問題署名運動と市町村合併検証アンケートは目標数値を達成できず心残りではありましたが、会長公式訪問や会員大会を通じて「地域を変えたいのなら国の在り方をもっと考えよう」と訴え続け、L O M事業ではおおよそ扱わないであろう国家的視点からの事業を精力的に展開した一年でありました。

横手で開催されたわんぱく相撲では、地域の皆さまと一緒に未来を担う子供たちの心と体を育み、湯沢での会員大会ではアカデミー生による研修を兼ねた9 L O Mの公益事業発表、そして選挙・裁判員制度・インターネット・国防等についての報道検証を通じて、次世代を担うリーダーとして身につけねばならないインテリジェンスを確立すべくメインフォーラムを開催いたしました。また褒賞事業は公開型とすることで参加されたメンバーがより他L O Mの事業を知りえる場とし、更には県民の皆様にもJ Cの事業を知って頂けることを目指して設営させて頂きました。

事業数が急激に増えたため単なる報告だけで、私の所感を書くスペースが無くなってしまいました。私が出向していた時代より多様且つ多忙になったブロック協議会を、最後まで総括してくれた渡辺専務をはじめとする秋田J C輩出の役員並びにスタッフ・メンバーの皆さまを心から誇りに感じています。

最後になりましたが、この1年多大なるご支援を賜りました小畑理事長をはじめ、L O Mの皆さまに心より感謝を申し上げまして出向者報告とさせていただきます。

出向を終えて

(社)日本青年会議所 東北地区 秋田ブロック協議会

運営専務 渡 辺 毅

出向経験のほとんどない私でしたが、一年間どうにか務め終えることができました。

秋田JCから3年連続のブロック会長輩出、それに伴い運営専務も3年連続であります。2007年度松本運営専務、2008年度田口運営専務から、「おまえならできる」と背中を押していただき、素直な私はあまり難しく考えずに役職を受けさせていただきました。しかし予定者がはじまり、ブロック内各LOMの理事長、LOMから期待をされ出向いただいた役員の皆様を前にしたとき、はじめて責任の重さを痛感し、声がうわずってしまったことを覚えております。

2009年度秋田ブロック協議会では、ブロック大会のメインフォーラムをはじめとして、わんぱく相撲秋田ブロック大会、秋田県知事選挙公開討論会、憲法タウンミーティング、領土意識向上署名運動など、対外的な事業に積極的に取り組みました。また、対内事業も会頭訪問や全6回にわたるアカデミー委員会をはじめとして多数行いました。そんな中、実は運営専務というのは事業当日ほとんど何も仕事がないのですが、事業実施にいたるまでの協議審議のスケジュール管理、予算配分、対外文書発信の際の最終確認等、いままでのLOM内での活動の中では学び得なかった部分を十分に経験させていただきました。

出向経験もなく、まだ「若手」の私ですが、はるかにご経験を積まれている副会長や理事長の皆様「専務、専務」とたてていただいたおかげで、どうにか一年間、ブロック協議会を運営し終えることができました。そしてなにより、出向を支えて下さった、小畑理事長をはじめとするLOMの皆さま（ブロック大会のあとLOMナイトで最後合流できたときの嬉しさは忘れることのできない思い出です）、動員等々で多大なご協力をいただいた山陰専務理事、些細な質問にも嫌な顔ひとつせず答えてくれた田口2008年度運営専務、ほんとうにありがとうございます。また、ブロック内では私の両腕となって最後まで責任をもってミッションを遂行して下さった秦財政局長、加藤事務局長には大変助けられました。そして最後に、長谷川ブロック会長、気が利かない、道に迷う、寝坊はする、という全くほめられない専務を、最後まで見捨てずに使っていただき心から感謝しております。長谷川会長とともに走りきることのできたこの一年を自分の中でひそかな「プライド」として、今後のJC活動への大きな糧にしていきたいと思っております。

事務局長としての出向を終えて

(社)日本青年会議所 東北地区 秋田ブロック協議会

事務局長 加 藤 誠

2009年度秋田ブロック協議会に事務局長として出向させていただきました。

今回でブロック協議会への出向は2回目で、LOMでの経験も生かしながら長谷川ブロック会長、

渡辺運営専務を全力でバックアップするつもりで出向しましたが、私の力量不足で多々ご迷惑おかけいたしました。心よりお詫び申し上げますとともに、お礼を申し上げたいと思います。

また、私をバックアップしていただいた明石次長・高橋次長・小川次長・大工原次長におかれましても大変ご苦労とご迷惑をおかけしました。次長のみなさんは、いつも笑顔で嫌な顔ひとつせずバックアップしていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。このメンバーと一緒にやれたことは本当に良い経験となり一生の思い出となりました。本当にありがとうございます。

最後に、今回出向の機会を与えていただいた小畑理事長はじめ企業貢献力向上委員会伊藤委員長また LOMメンバーに心より感謝申し上げます。

財政局局長を終えて

(社)日本青年会議所 東北地区 秋田ブロック協議会 財政局

局長 秦 裕 勝

私は J C 会員となって 2 年目、J C がどのような団体であるのかもよくわからない状態で財政局局長という大役を仰せつかり、2009 年度秋田ブロック協議会財政局局長として出向させていただきました。

財政局局長になることが決まった当初は、周りの方々から「財政局局長はダブル出向だから大変だね」、「騙されたな」などと言われました。当時、「ダブル出向」、「東北地区」、「秋田ブロック協議会」などの意味がわからなかった私は、自分がどんなに大変で重要なポストを任されたのか認識していませんでした。

あれから 1 年 3 ヶ月が経った現在、私には「ダブル出向は大変」、「騙された」などという気持ちは全くありません（実は、当初からそのような気持ちは全然なかったのですが、皆と話を合わせるための話しのネタとしては使わせていただきました。）。それよりも、2009 年度が始まってから財政局局長として何をすればよいのかよくわからず、長谷川尚造ブロック会長をはじめ、渡辺毅運営専務や秋田ブロック協議会の役員の皆様にご迷惑をおかけしたことを大変申し訳なく思っています。

中間監査が終わったあたりからやっと財政局局長の仕事の大変さや重要性がわかりはじめ、その後はこれまで見逃していた部分やしっかりチェックできていなかった部分を修正するのに難儀しました。そして、Web バランスマンの入力も・・・(Web バランスマンに対する苦情を書き始めると、止まらなくなるのでやめておきます。)

振り返ると、財政局局長の仕事は大変でしたが、それ以上に財政局局長をさせていただいたことで得たものは、ここには書ききれないほど大きなものだ実感しています。2010 年度は、財政局局長として得たものを LOM に役立てつつ、これまで曖昧に行われていた財政局局長の仕事の引継ぎをキッチリと行うことで、2010 年度の秋田ブロック協議会を影ながら応援したいと思っています。

出向者報告は、ブロック会長、理事長そして LOM のメンバーに対して、出向させてもらった御礼を書くのが慣わしのようなことを言われたことがありますが、そのような慣わしなどに関係なく、財政局局長として出向させていただいたことに心から小畑宏介理事長をはじめ、LOM のメンバーの皆

様には感謝しております。ありがとうございました。

財政局局長の仕事について何もわからなかった私をあたたかく見守ってくださった、長谷川尚造ブロック会長、進藤文仁直前会長、財政局局長として頼りなく迷惑ばかりかけている私をいつも優しくフォローしてくださった渡辺毅運営専務、本当にありがとうございました。心から感謝申し上げます。

そして、最後の最後まで出来の悪かった私を支えてくださった、秋田ブロック協議会役員の皆様、本当にありがとうございました。

『出向を終えて』

(社)日本青年会議所 東北地区 秋田ブロック協議会 事務局

次 長 明 石 浩 貴

2009年度、秋田ブロック協議会の事務局次長として出向させていただきました。初めての事務局ということで多少の不安、戸惑いもありましたが、加藤局長をはじめ安心の出来るメンバーが揃い心強く思いました。

会議、懇親会の設営はもちろんのこと、会議への取り組む姿勢、進行等を実際にみる事ができ、私のJ Cライフにとって大変勉強になりました。また、各L O Mから出向されてるメンバーとの交流もでき、お話をさせていただいたことも貴重な経験となりました。一年を通し、秋田ブロック協議会の様々な活動を体験しつつ間近で見られることも出来、参加させていただいた事も貴重な経験となりました。本当に楽しく活動させていただきました。今後この貴重な経験をL O Mに貢献できるよう取り組んでまいります。

最後に快く送り出してくださいました小畑理事長をはじめL O Mメンバーの皆様へ深く感謝するとともに、長谷川会長、渡辺運営専務、事務局の皆様にご指導、サポートしていただいたことを心より感謝いたします。一年間本当にありがとうございました。

出向を終えて

(社)日本青年会議所 東北地区 秋田ブロック協議会 事務局

次 長 高 橋 英

昨年のちょうど今頃、秋田ブロック協議会事務局次長への出向の機会を頂きました。会場の設営や会議のバックアップを、長谷川ブロック会長をはじめとする渡辺運営専務、加藤局長などの多くの方々からご指導をいただきながら、他のL O Mのメンバーとの交流、L O Mの枠を超えた大切な出会いや情報交換の場など、貴重かつ新鮮な経験を得ることができたと感じております。

この一年間で得たものを、自分のL O M事業や会社業務へ今後反映させるべく頑張っていきたいと思っております。

最後に今年度の出向を御許し下さいました理事長並びに委員長に御礼申し上げます。一年間、有難う御座いました。

秋田ブロック協議会 事務局・次長 出向を終えて

(社)日本青年会議所 東北地区 秋田ブロック協議会 事務局

次 長 小 川 優

2009年度はブロック協議会の事務局次長として出向しました。去年の2008年度は東北地区協議会アカデミー委員として出向し、J Cを基礎から学びました。その基礎から学んだことを活かせると思い、2009年度の秋田ブロック協議会事務局次長の出向を引き受けました。2009年度は1月17日から秋田ブロック協議会・役員会議・会員会議所会議が始り今年度初の会議運営などに携わりましたが、不慣れな点が多数あり反省点が多い2009年度事務局次長の始まりでした。

事務局長と事務局次長（4人）全員が秋田青年会議所メンバーということで、一致団結をし力を発揮して「2009年度・秋田ブロック協議会を支えよう！」という気持ちで事務局が一丸となり、2009年度の一步を踏み出しました。秋田ブロック協議会の会議を重ねる度に、役割分担など仕事をきちんと理解して会議運営を出来るようになりましたが、まだまだ気がつかないところの配慮が欠けておりました。そんな時に事務局長に何度も助けられ勉強させていただいた事を、今後の青年会議所に活かし次年度秋田ブロック協議会・事務局次長予定者にきちんと引継ぎをしたいと思います。

秋田ブロック協議会に事務局次長で出向をし、秋田全県の青年会議所メンバーで普段会えない人・話す機会のない人等とも交流ができ、新しい人脈もでき秋田ブロック協議会の運営にも携わることができ、非常に勉強となった2009年度の出向と思います。

出向を終えて

(社)日本青年会議所 東北地区 秋田ブロック協議会 事務局

次 長 大工原 潤

本年度、秋田ブロック協議会に事務局次長として出向させていただきました。1年間を振り返ってみると本当にあっという間でした。事務局次長として協議会のスムーズな運営に貢献できるようにと目標を立てておりましたが、最後まで加藤事務局長、渡辺運営専務をはじめ多くの役員の方にご迷惑をお掛けしてしまったと思います。心よりお詫び申し上げます。

事務局次長という役目をいただき、皆様にご迷惑をお掛けしながらも私自身多くの方との出会や、様々な経験をする事ができ大変勉強させていただきました。出向しなければ、わからないままで終わってしまうことや、出会うことのない方がいたと思います。本当に大切な経験をさせていただけたなと思います。この1年間で学ばせていただいたことをこれからのJ C活動に活かして、LOMに貢

献できるよう努力していきたいと思ひます。

長谷川ブロック会長をはじめ、加藤事務局長、渡辺運営専務、秋田ブロック協議会役員の皆様方、1年間、御指導いただきましたことに厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

出向を終えて

(社)日本青年会議所 東北地区 秋田ブロック協議会 総務委員会

委員長 横山 健太郎

本年度、日本青年会議所 東北地区秋田ブロック協議会 総務委員長として出向させていただきました。総務委員会は、裏方のさらに裏方という役目であったと感じております。また、通常経験することのないであろうLOMでも総務、ブロック協議会でも総務という、ダブル総務をさせていただき、非常に多くのことを学ばせていただきました。

役員会議、会員会議所会議において、会長を中心とする役員の皆様方、時間を忘れて議論を重ねる真摯な姿勢に感動を感じました。特に睡眠時間を削って議事録を手伝ってくださった渡辺運営専務の「覚悟」に、大変感銘を受けました。私はというと、議事録を書くために委員にWordを買ってくださいと指導することも出来ず、また、ホームページに関しても委員に委託をお願いすることも出来ず、結局全部自分で抱え込むことになってしまいました。力不足を恥じることも出来ない、相変わらず面の皮が厚い自分でありました。ただ、このことを通じて間違いなく自分がステップアップしたなど感じることは、議事を聞きながらパソコンでメモをリアルタイムで取っていくことだと思います。この技術を、ぜひ次年度のLOMの配属先である総務委員会に引き継ぎたいと思ひます。また、人付き合いに関しても、もう少し自分を出せる所では包み隠さずに出し、空気を読まなくてはならない所では隠せるよう、一定の距離を取りつつも懐に切り込んでいけるよう一皮剥きたいと思ひます。

委員長として委員会を運営することが全く出来なかった1年間でした。そんな私をお支え頂きました皆様お一人お一人に、感謝の言葉を述べさせて頂きたいところですが、この出向者報告をもってかえさせて頂きたいと思ひます。

誠に1年間ありがとうございました。

ブロック出向を終えて

(社)日本青年会議所 東北地区 秋田ブロック協議会 自立したあきた創造委員会

委員 古谷 昌規

本年度、秋田ブロック協議会 自立したあきた創造委員会に出向させていただきました。自立したあきた創造委員会はブロック大会のメインフォーラムが担当で、本年度は「メディア・リテラシー」についてのフォーラムをさせていただきました。「メディア・リテラシー」は私がどうしてもやりたかったことのひとつで、昨年L OMの委員長の時に初めてやらせていただきました。そして今年度秋田ブロック協議会でも「メディア・リテラシー」を取り上げるということを知り、昨年一年間取り組んできたことは間違っていなかったという喜びと同時に「メディア・リテラシー」を多くの方々に知ってほしいという想いが強くなりブロックに出向いたしました。

出向を終えて思うことはもっとうまく「メディア・リテラシー」を説明できなかったのか？参加して頂いた人達は理解してくれただろうか？という反省ばかりで、改めて想いを人に伝える難しさを痛感いたしました。しかし、委員会メンバーとの交流、熱い議論かわした日々。ラストイヤーで出向できたことは私にとって忘れられない思い出です。

最後になりますが、出向の機会を与えてくださった小畑理事長をはじめとするL OMのメンバーに深く感謝します。そして一年間温かく見守っていただいた長谷川ブロック会長、本当にありがとうございました。

出向を終えて

(社)日本青年会議所 東北地区 秋田ブロック協議会 J C運動推進委員会

副委員長 佐々木 寛人

今年は卒業年なので、好々爺よろしくぬるく、笑顔だけで過ごそうと思っていました。たまたま専務理事の渡辺毅君と共に、「じねんじょダダミ会」と云う部外活動をしているからなのか、J C何とか委員会に出向をお願いされたので、最後のご奉公を、と思った次第です。

この委員会がどんな活動をしたのかは、たぶん大館の木村委員長が詳述するでしょうから、さてボクは何をお話すれば良いのかしらん…。

そうそう、出向等いろんな場所に顔を出す機会を頂くと、必然的にその回数以上の人たちとお話をします。

心から思うのは本当に優秀な人が沢山いらっしゃるなあ、ということです。

口の達者なだけの鼻持ちならぬ人も多かったけれど、目が子猫のように新鮮な興味を求め、燃えるような情熱的な人にも出会えたことは財産でした。

若い時に読書した中に、「狂」にならなければ事を成すは難し云々、とあったことを思い出します。

J C活動での一心不乱の「狂」は、皆のベクトルを共鳴させると、時代をも動かすことが出来るの

でしょうね。

この時代は先人の、努力の積み重ねの上に成り立っているのは周知のことですけれど、自分の会社や、祖先のことは当然として、他に、地域で活動していた先人や、大きく云えば、過去の日本人にまで心配りすることが出来るようになったのは、ひじょうに有難い事でした。一応ボクの J C 活動はピリオドを打つ訳ですが、どうやら個人的には子供をとおしてサステイナブルな雰囲気になりそうです。背伸びせずにありていなムードでいきましょうか。

皆さん出向は良いですよ。

おしまい。

出向を終えて

(社)日本青年会議所 東北地区 秋田ブロック協議会 J C 運動推進委員会

委員 中 泉 俊 幸

私が所属した、J C 運動推進委員会は、多くの事業を抱えた委員会でしたが、中でも、突出して印象に残っている、秋田県知事選の公開討論について感想を書きたいと思います。解散のある衆院選と違い、任期満了に伴う知事選は、時期がある程度、予想されていたので、準備のスケジュールは、立てやすいと、安易に考えていました。しかし、立候補者が誰になるかは、事前にはわかりません。準備の段階で、出馬のニュースを毎日、メンバー全員、緊張した状態で、見守っていました。出馬の時期が、公開討論の後では、その候補者は参加できず、誰に投票をするか、参考にしようと考えていた、市民の方々には、不満の残る結果となります。

誰が立候補するか、と同時に、出馬の時期も、たんへん気をもんでいました。委員長はじめ、各委員と携帯電話で、出馬の噂話をしながら、新聞やテレビの報道を、見守っていた当時の雰囲気を、今でもよく覚えています。準備の段階でも右往左往しましたが、公開討論当日もいくつか波乱がありました。候補者の一人が、開始時刻を 1 時間勘違いしていて、定刻にも現れず、予定していた事前の説明等を大幅に短縮しての討論開始になりました。後から聞きましたが、実行委員長はこのまま候補者が揃わなければ、ステージで、すいませんでした、と土下座しようとも考えていたそうです。一委員の私ですら青ざめていたので、実行委員長がどのような気持ちだったか想像するに余りあります。

討論開始の時間が迫っても、客席が半分も埋まっていない状態だったことにも、緊迫させられました。また、苦勞して準備したにもかかわらず、聴衆日の集まりが悪いことにも失望もしました。サクラででも人を集めようと、知人へ電話をかけたまくろうかとも考えましたが、幸いなことに徐々に席は埋っていき、討論が始まる頃には会場は満杯になりました。その夜の打ち上げの際、会場が満席になっていったことの安堵感と満足感を、みんなで語り合ったことを覚えています。全員が、同じ気持ちだったようです。

討論の開場時、人が集まっていなかったのは、仕事のある人が間に合わない時刻にしていたことが原因と考えられます。今後、選挙の公開討論を企画する際には、このことを考慮するべきだと思います。公開討論そのものに対しても、意見があります。あまりに規制が多く、現行の公職選挙法の下

では、市民のニーズに十分に対応できていません。公平な討論が行われるという大前提の下で、規制が緩和されることを願いたい、というのが実際に企画運営した者の正直な意見です。

マスコミとの対応も、印象に残っています。公開討論について、また、政治について、記者の方々と意見を交わす機会を多く持つことが出来ました。自分に新たな人脈が生まれたことも、今回、ブロックへ出向したことの有意義な点として挙げられます。そしてなにより、LOMにいただけでは知り合うことの無かった他のLOMのメンバーと友情を築けたことが、ブロック出向の醍醐味だったと思います。公開討論で、ピリピリした一日を過ごした思い出と共に、新しい友人が出来たことは、自分にとって大きな財産です。

過去最高のブロック大会！

(社)日本青年会議所 東北地区 秋田ブロック協議会 ブロック大会運営委員

細 谷 太 郎

本年度第39回秋田ブロック会員大会に向け、委員として出向させていただきました。自身アカデミー委員会以来の出向で、前は出席出来ない事が多く、不完全燃焼状態でしたので、なるべく多く出席しようと心掛けました。また、アカデミー委員会同期の仲間3人と再会できたことで、あらためて出向の素晴らしさを実感できました。久米川ブロック副会長の「過去最高のブロック大会を」のスローガンの元、2009年上半期をメンバー一丸となって駆け抜けて参りました。正味7ヶ月間でしたがこれだけ一丸となれたのも、佐藤貴史委員長のお人柄だと思います。短期間にあったにも関わらず非常に密度の濃い委員会でしたので思い出も尽きません。秋田の夜で朝4時過ぎまで語り飲んだ事。大曲の夜では素晴らしいお店に辿り着いた事。ブロック大会前夜、藤田理事長にショットバーでご馳走になった後さらに、2日連続同じラーメンを食べに行った事。また大懇親会のサプライズの秘密ミッション、何度も口が滑りそうになりました。長谷川会長びっくりさせてすみませんでした。そして何より今年一番の出来事はブロック大会の司会を仰せつかったことです。LOMでは交流事業の表彰式司会の経験しか無い中、デビュー戦がまさかのブロック大会。しかも2時間以上話し続けるなど、夢にも思いませんでした。緊張のあまりタイムスケジュール通りに質疑応答を終わらせる事ができました。JC活動だけでなく、人生においても素晴らしい経験をすることができました。最後に出向のオファーをくださった山陰専務、快く送り出し温かく見守ってくださった小畑理事長はじめLOMの皆様、本当にありがとうございました。

出向を終えて

(社)日本青年会議所 東北地区 秋田ブロック協議会 わんぱく相撲運営委員会

副委員長 本 田 正 博

通算四度目の秋田ブロック協議会への出向である2009年度は、わんぱく相撲運営委員会という今までのような裏方ではなく事業を行う委員会への配属でした。

これまでは総務委員会など事務、バックヤードの仕事が多かったので正直不安もありましたが、同じく出向していただいた佐野委員長や大嶋運営幹事（ともに社団法人横手青年会議所）、そしてLOMの担当でもある青少年育成委員会の鈴木委員長、山内副委員長、浅利運営幹事にもサポートいただき無事1年間の出向を終えることが出来ました。

中でもわんぱく相撲ブロック大会場所での子どもたちの真剣な姿、そして勝負に負けたときの悔し涙には目頭が熱くなりました。こういう子どもたちがいる限り将来は明るいなど感じた次第です。何事にも一生懸命に取り組む、そんな子どもたちをこれからも応援して行ければと思っております。

サポートいただきました皆さま、そしてこの出向の機会を作っていただきました皆様に感謝申し上げます。

出向を終えて

(社)日本青年会議所 東北地区 秋田ブロック協議会 アカデミー委員会

委員 大 沼 一 弘

本年度、秋田ブロック協議会のアカデミー委員会に出向させていただきました。

在籍2年目で初めての出向という事で不安を抱えてのスタートでしたが、開校式・1回目の委員会に参加させていただいたところ県内各LOMから集まった活気あふれる同志との出会いで不安が取り除かれました。『すべてにプライドをもって ～つよい秋田創造のために～』のスローガンの下、一年間積極的に参加させていただこうと意気込んでおりましたが、2回目以降の委員会にはスケジュールが合わず参加する事が出来ませんでした。安里会頭が来県された大曲での委員会にも出席出来なかった事が非常に悔しい思い出です。

湯沢で開催された秋田ブロック大会には、アカデミー委員会として各LOMの過去の事業を検証し掲示する課題が出され、秋田青年会議所の歴史を勉強させていただきました。各LOMの過去の事業も、各地域の経済・文化等の現状を研究し、地域の発展に貢献した素晴らしい事業ばかりでした。

秋田ブロック大会以降は閉校式まで活動に参加する事が出来ず、大友委員長の熱心なお誘いにお応えする事が出来ない事に心苦しい後半でしたが、アカデミー委員会に出向させていただいた事で普段出会う機会が少ない地域のメンバーと同じ目的の中で講習を受け、懇親を図れた事は今後JC活動を行っていく上で大変に貴重な経験をさせていただきました。

最後に出向の機会を与えていただきました事に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

ブロック出向を終えて

(社)日本青年会議所 東北地区 秋田ブロック協議会 アカデミー委員会

委員 木元 恭平

2009年度、秋田ブロック協議会のアカデミー委員会へ出向させていただきました。開校式にて閉会宣言の役に任命していただき、貴重な体験を得ることができました。しかし、その後の活動へ参加することが出来ず、結果「交流」や「友情」などを築くことが適わないところとなりました。

「呼びかけ」や「声かけ」に熱いものを感じましたが、それに応える事ができなかったことを残念に思います。今後、この現状を打破する為に自分の環境を整え、JC活動を通して様々な角度でのスキルアップを構築してゆきたいと考えております。

機会を与えてくれた皆様に感謝すると共に、この場で恐縮ですが御礼を申し上げます。

出向を終えて ～DEAIとKIZUNA～

(社)日本青年会議所 東北地区 秋田ブロック協議会 アカデミー委員会

委員 吉川 脩

本年度、(社)日本青年会議所東北地区秋田ブロック協議会「アカデミー委員会」へ出向させていただきました。山陰専務からのお誘いに二つ返事で決めてしまったものの、委員会の開催は大抵が週末・職業柄、週末を空けてしまうことに戸惑いも覚えました。しかし、ほとんどが秋田市内で開催されること、「アカデミーは楽しいよ」という諸先輩方の助言、なによりLOM同期メンバーも参加することに背中を押され、2月7日アカデミー委員会の扉を開きました。

出向を通して一番得たこと、それはやはり“出会い”ではないでしょうか。秋田県内9LOMから集まったメンバーとは、必然的に出会ったのだと思います。まだまだ若輩者の私としては、「秋田にはこんな人達がいたんだ」「こんな仕事をしている人達がいるんだ」という発見の場でもありました。職業はもちろん、肩書き、年齢、様々なメンバーがおりましたが、「JC新入生」という一つの共通点でみなさんとは親睦を深めることができました。

事業でも、ブロック大会での9LOM事業展示会の作成にあたって、秋田JCの過去の事業を振り返ることで、諸先輩方のこれまでの足跡を知ることができたことと共に、他のLOMの足跡も知ることができました。これは一秋田人としても、非常に有益なことでした。

そして、忘れもしない6月12日の安里繁信日本青年会議所会頭によるJCプライドアカデミー。あの一日は本当に充実した、忘れえぬ日となりました。何を感じたか、それは十人十色あると思います。私も“何か”を得ました。しかしそれは口で簡単に説明できるものではなく、今後の自分の人生において体現していくべきこと・・・家族の大切さ、故郷への想い、仕事への誇り、JAYCEEであるプライド、いろんなことを再認識させられました。

本年度のアカデミー委員会のスローガン「すべてにプライドをもって！～つよい秋田創造のために

～」。出向させていただき、自分のLOM、他のLOM、そこに集うメンバーと“出会えた”こと、私はそのことにまず誇りを感じることができました。この秋田にも。

最後に、このような素晴らしい機会を与えていただきました小畑理事長をはじめLOMのみなさま、長谷川会長をはじめ秋田ブロック協議会のみなさまには心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

そして・・・同期のみんな、ありがとう！

『出向を終えて』

(社)日本青年会議所 東北地区 秋田ブロック協議会 アカデミー委員会

委員 仙北谷 聡

本年度、秋田ブロック協議会アカデミー委員会の出向の機会をいただきました。

アカデミー出向・・・。秋田青年会議所に入会してから、スクールがあって今度はアカデミーか。名前は違えど「学ぶ場所」なんだろうなあ。聞くところによると、アカデミーへの出向はJC生活の中でも一回しかいけないとの事。「ならばいつてみようか、さて今度はなにを学ぶのか」どんなものかもわからないまま返事をしたのが私の最初に受けた感じでした。

アカデミー委員会の活動は、開校式ではJCの先輩の講演を聞き、その後は自分のLOMの過去の事業を検証し、そして最後には自分達でも実際に事業を計画してやることでした。正直、JCやLOMの事すらもよくわからない私にとっては、過去の資料を見るだけでも新鮮でした。ひとつの事業を時系列に読んでみて、この事業は最後どうなるんだろう、こうやって事業は進んでいくんだなあ、なんとなくではありつつも少しはわかったように思います。残念ながららすべて出席する事は出来ませんでした。同じく出向した他メンバーに助けられながらアカデミーを卒業できた事は、なによりありがたい思いがあります。今回は助けられた。ならば次は自分が助ける番だ。そう感じさせられました。

ほんとうにありがとうございました。

最後になりますが、今回出向して得たものを無駄にすることなく、この経験を今後のLOMの活動に生かせるようにしていきたいと思います。

アカデミー委員会に出向して

(社)日本青年会議所 東北地区 秋田ブロック協議会 アカデミー委員会

委員 根田 絵美子

入会して初めての出向先は秋田ブロック協議会アカデミー委員会でした。アカデミー委員会は入会歴3年未満の人が出向する場所という事で、言わば何もわからない状態での出向となりましたが、同

じL O Mからの出向者が6名いるという事で特に不安もありませんでした。出向が決まった時、「個人的に100%出席達成」という目標を持って出向に挑みました。この目標を達成しようという気持ちが最後まで頑張れたのではないかと思います。アカデミー委員会は「J Cとは何か」という事を学には最適な場所で、L O Mで知り得ない事を多々学んできたような気がします。委員会がある度に自己紹介をし、人前で話す事を苦手としていた私でしたが、回数を重ねていくたびに慣れ、そして人に伝える事の難しさを経験してきました。他のL O Mのメンバーとは最初話す事もなく、他人行儀でぎこちない言葉を交わしてきましたが、共同作業をしていく度、次第に仲間意識が芽生えて彼らに会うのも1つの楽しみとなり「個人的な目標」の糧になっていたと思います。アカデミー委員会に出向して一番記憶に残っているのが安里会頭の講演でした。アカデミー委員会の為の最前列の席で安里会頭の講演を拝聴したときは、ドキドキ感がおさまらなかつた事を記憶しています。言葉では表現できない心に熱く残る安里会頭の言葉や表現に、40歳までの長いJ Cライフをどう過ごすかは自分次第だと改めて感じました。ブロック大会では自分が所属するL O Mの過去の公益事業をパネルにするという課題を課せられました。同じL O Mのアカデミー委員会出向メンバーと共に事務局で資料集めをし、私たちが経験していない過去の事業の良さをどのようにアピールするかを一生懸命考えました。私たちではどうにもならない事についてはJ C歴の長い現役メンバーに聞いたり、当時の理事長だった先輩方に聞いたり緊張の連続でした。この課題で思ったことは、自分が所属するL O Mの過去の事業や当時の理事長が誰であったのかという事を知る事ができ、現役として「今」のJ Cを過ごしている私たちにとってはとても良い経験となりました。そしてまた、すべての事業の良さを知る事もでき、今後活動していくにあたり大きな収穫となった課題だったと思います。最後の課題は「いきいき街プラン」と題して自分たちで事業を考え、各L O Mの理事長にプレゼンテーションをするという、私にとっては無理難題以外のなにものでもないと思うような課題でした。何もないところから始める大変さ、そして認めて貰えるのかという不安ばかりが先走ってしまい、一番情けないプレゼンをしてしまいました。あの日のプロ長の心遣いには感謝以外なにもありません。あつという間の数ヶ月間でしたが、短い期間で培ってきた仲間との友情はこの先ずっと続く宝となりました。皆勤賞もいただき、目標達成する事もでき、修練だらけの場所ではありましたが、最高の仲間と思いが出来ました。出向させていただき本当にありがとうございます。

(8) 選挙管理委員会

委員長 古 谷 昌 規
委員 菅 原 俊 渉
委員 中 泉 幸

社団法人秋田青年会議所役員選任の方法に関する規定に従い、2009年度理事選考選挙及び理事長選考を行いました。

(1) 2009年度理事選考委員選挙

有権者数	96票
投票者数	79票
投票総数	316票
有効投票数	316票
無効投票数	0票

理事選考委員名 (50音順)

1. 加賀屋久人	2. 川口 雅丈	3. 小松 貴
4. 進藤 史明	5. 鈴木 充	6. 田口 正人
7. 山陰 逸郎	8. 渡辺 毅	

(2) 2009年度理事長選挙

締 切 6月30日

川口雅丈君より立候補届出があり、審査の結果、被選挙資格があるものと認め、また役員選任規定第21条により川口雅丈君を当選者とし、7月2日通知いたしました。

(9) 基金管理委員会

2009年度基金管理委員会

日 時 2009年3月17日(火) 12:00～

場 所 シャインプラザ平安閣

1. 開 会
2. 理事長挨拶
3. 直前理事長挨拶
4. 協議事項
 - イ) 基金状況について
 - ロ) その他
5. 閉 会

小畑理事長

長谷川直前理事長